

来ふらり76

タイトルのフレーズは、70年代の角川映画・文庫のメディアミックス戦略のキャッチコピーで、一定年齢以上の人にはことさら懐かしい。小説に限らず数々のコミックが映画化され、また、映画がノベライズ化されるようになった現代では、その垣根はもっと低くなっている。映画人口の減少や若者の活字離れが喧伝されるようになって久しいが、30年以上も前の自分の学生時代、映画館（名画座巡り）、古本屋・図書館、喫茶店、この3ヶ所をトライアングルのように移動して過ごしていた青春時代、活字中毒・銀幕中毒のような日々を送っていた者、劇場からは少し足が遠ざかってしまったが、DVDなどで年に200本以上の映画を観つづけている者からみると、寂しくもあり隔世の感がある。そんなことから、本と映画と青春、それは切っても切れないものという勝手な思い込みがある。

さて、誰しも好きな小説が映画化され、期待して劇場に足を運んでみたもののガツカリ...という体験を味わったことがあると思う。そもそも原作小説とその映画化は全く次元の違うもので、作り手にもその自覚がないと中途半端なものになり、受け手にとっても映画化された作品を観るときと原作を読むときで異なった能力が求められることになる。上映時間の制約、余白・行間の伝えにくさ、画・映像による圧倒的な情

読んでから観るか
観てから読むか

大学経理部長

八田誠

報量の違い、一瞬の場面でも緻密な心理描写を可能にすること等々、その違いからも原作に忠実なことがベストなわけではない。作家、監督それぞれが描きたかったものが、どれだけ自分の心に届いたか、が自分の評価に繋がっていく。要は楽しんだものの勝ちで、結局は原作と映画の違いをあげつらっているのは両者の本質を見失うことになる。

この秋、「春の雪」が映画化される。三島由紀夫の遺作『豊饒の海』四部作の第一作、学習院生松枝清顕と伯爵令嬢綾倉聡子の儂く引き裂かれる禁忌の恋、華麗な文体による馥郁^{ふいく}たる香りの文芸大作、夢と転生の壮麗な絵巻に、「GO」や「セカチュー」の行定勲が挑むもので、今からある程度の評価は予想できるものの、是非自分の目で原作・映画のそれぞれの面白さを確かめ、堪能して欲しいものである。（ミーハー的には、目白ではなく明治村でのロケというのは残念だが、時空を超え、大正期の学習院生にも思いを馳せてもらいたい。）

「読んでから観るか、観てから読むか」、その自由はあなたに委ねられている。感受性の強い、若さという柔軟なバネを持つこの時期に、ゆとりある学生生活を送り、より多くの良い本と映画に出会って、心の潤い、心の豊かさを育てて欲しいと願わずにいられない。

書庫でまどろむ本たち ▶▶



「旧分類資料」
学習院の「和漢書分類法」

さて、見たい旧分類資料が決まったら、1階カウンターで請求してください。館内での閲覧もしくは館外貸出や複写ができます。(ただし、明治10年以前刊行の和図書および辛亥革命以前刊行の漢籍は除く。)また、研究目的であれば書庫に入庫して資料を直接探すことも可能です。「書庫入庫願い」に記入し、ロッカーに荷物を預けて、東1号館へ行きスリッパに履き替え、入庫します。資料請求・入庫時間は平日9:00~16:30(11:30~12:30は除く)です。

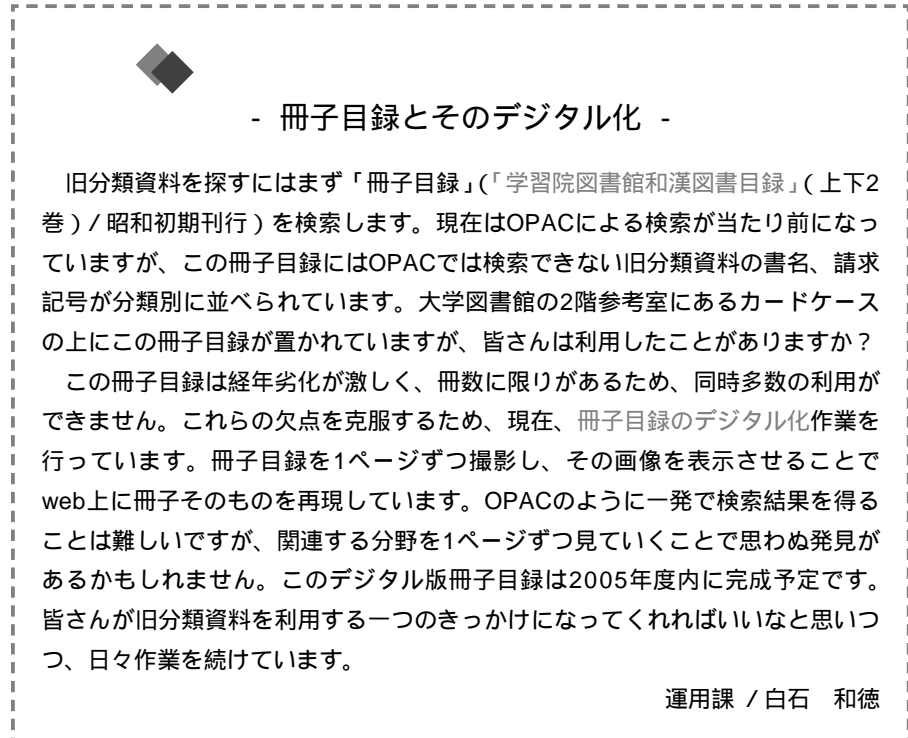
旧分類資料の中には古くて劣化が激しいために、汚損・破損・紛失をしまうと、修復や同じ資料を入手することが困難なものが数多くあります。資料の取り扱いには十分注意をしてください。具体的には、筆記具には鉛筆を使用する、資料を鉛筆でなぞらない、付箋紙を貼付しない、ページを折らない、など基本的なマナーです。利用マナーを守って大切に使いたいものです。

運用課 / 樋口 佳奈



本館図書部、和洋図書部、写本・活字部、デジタルライブラリー部、読書推進部、資料保存部、資料館

運用課 / 広瀬 淳子



- 冊子目録とそのデジタル化 -

旧分類資料を探すにはまず「冊子目録」(「学習院図書館和漢図書目録」(上下2巻)/昭和初期刊行)を検索します。現在はOPACによる検索が当たり前になっていますが、この冊子目録にはOPACでは検索できない旧分類資料の書名、請求記号が分類別に並べられています。大学図書館の2階参考室にあるカードケースの上にこの冊子目録が置かれていますが、皆さんは利用したことがありますか？

この冊子目録は経年劣化が激しく、冊数に限りがあるため、同時多数の利用ができません。これらの欠点を克服するため、現在、冊子目録のデジタル化作業を行っています。冊子目録を1ページずつ撮影し、その画像を表示させることでweb上に冊子そのものを再現しています。OPACのように一発で検索結果を得ることは難しいですが、関連する分野を1ページずつ見ていくことで思わぬ発見があるかもしれません。このデジタル版冊子目録は2005年度内に完成予定です。皆さんが旧分類資料を利用する一つのきっかけになってくれればいいなと思いつつ、日々作業を続けています。

運用課 / 白石 和徳



以前利用したことのある資料をOPACで検索したところヒットしない。「確かあったはずなのに…」そんな経験はありませんか。何故ヒットしなかったのか？検索結果はキーワードの指定の仕方違って来るからです。

『「甘え」の構造』(土居健郎著)を探してみましょう。TITLE欄に「甘えの構造」と入力してもヒットしません。「」(カッコ)付の「甘え」だからです。ところが「甘え 構造」(はスペースをひとつ)と入力するとヒットします。複数のキーワードの間にスペースを入れて検索すると、これらのキーワードを含んだタイトルを拾ってきます。この中から求めるものを探し

出せばよいのです。

タイトル中に、Ⓢ,!,+,♡,等の合成文字・記号・図形等が含まれている場合、うろ覚えのタイトルの場合、タイトルが変更になった雑誌を探す場合などには、キーワードの間にスペースを入れましょう。完全一致で検索するよりちょっと手間がかかりますが、思いがけない資料との出会いもあるかもしれません。

スペースを使うことはTITLE以外での検索、NACSIS webcatや他大学のOPACを検索する場合などにも有効です。

急がば回れ！ お試しください。

整理課 / 石田 京子

●● 図書館のルールとマナー ●●

借りた本を返却期限までに返すのは図書館利用者の最低限のルールです。どんなものでも借りたものは返すのが当然だと思いますが、これが意外と守られていません。返却が遅れると貸出停止処分になりますが、これもあまり抑止効果はないようです。

特に試験期などで特定の資料に利用が集中するようなときは、他の利用者の迷惑になるばかりでなく、図書館側にとっても電話や手紙での督促にかかる手間は大変なものです。

しかしもっと驚いたのは開館中にもかかわらず、玄関前にある返却用のポストに無理やり本をいれようとしている学生がいたことです。声をかけてみると、返却日を大幅に過ぎていて図書館員に怒られるのが嫌だったというのです。またひとりで返しに行けず友達と一緒にカウンターに来る学生もいます。

人とのコミュニケーションが苦手な学生が増えているようですが「遅れてすみませんでした」の一言をそえて返せばすむのと思います。マナーの基本は他人に対する思いやりです。共有財産である図書館の本をお互いに気持ち良く利用できるように心がけましょう。

整理課 / 北村 誠



「来ぶらり」のバックナンバーは大学図書館ホームページ (<http://www.glim.gakushuin.ac.jp/>) で公開しています。

来ぶらり No.76 2005年10月1日発行

発行責任者：荒川一郎 編集委員：生田陽子・工藤晶子

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

☎03-3986-0221(代) 内239㉔(ファクス) 内239㉗(閲覧) 03-5992-100㉘(閲覧直通)